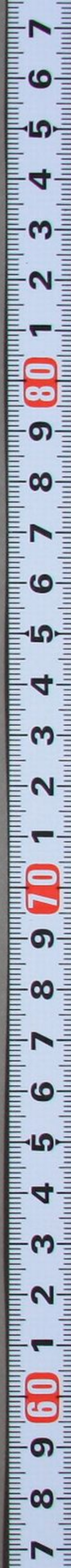




國志大師傳

五六



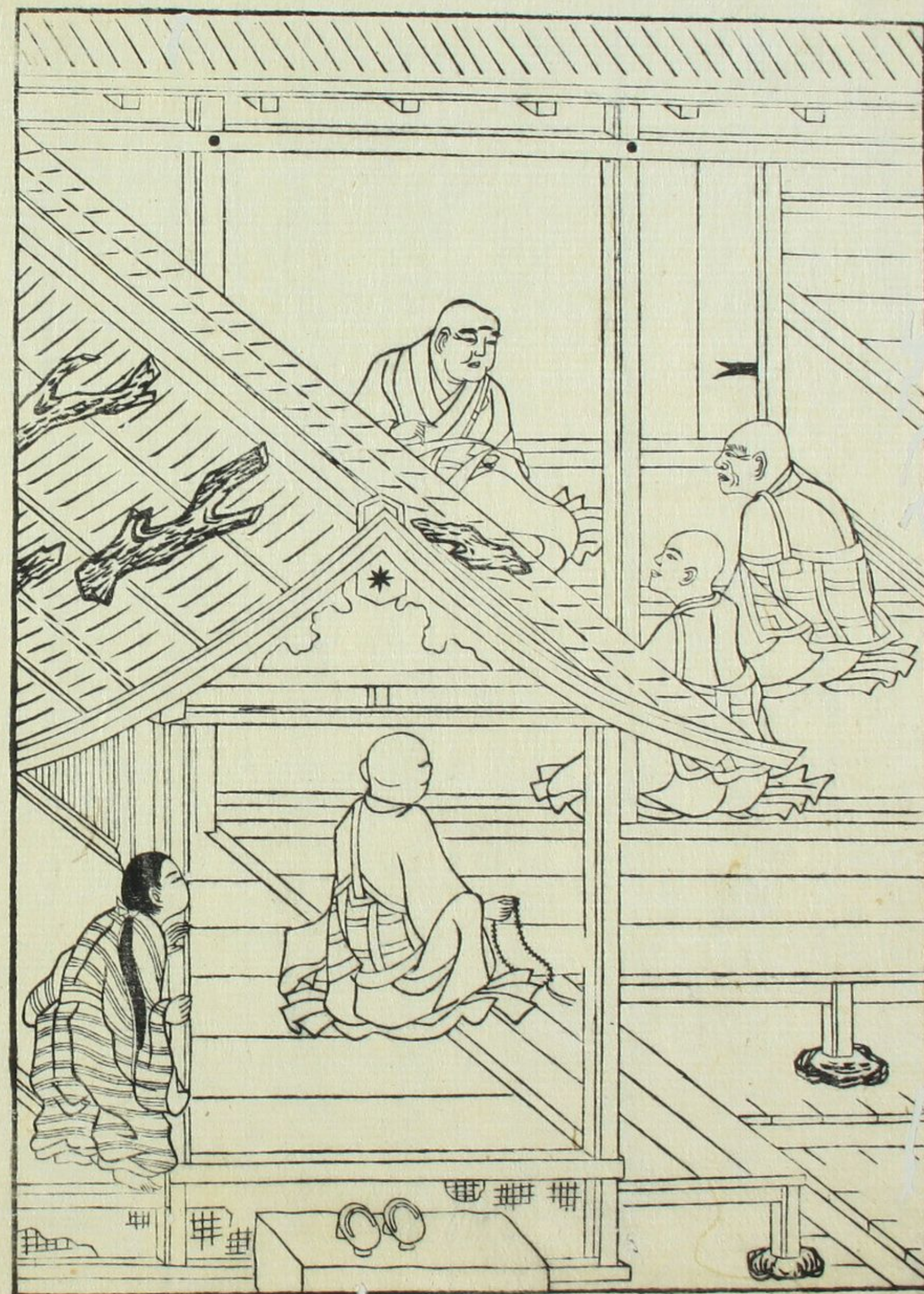
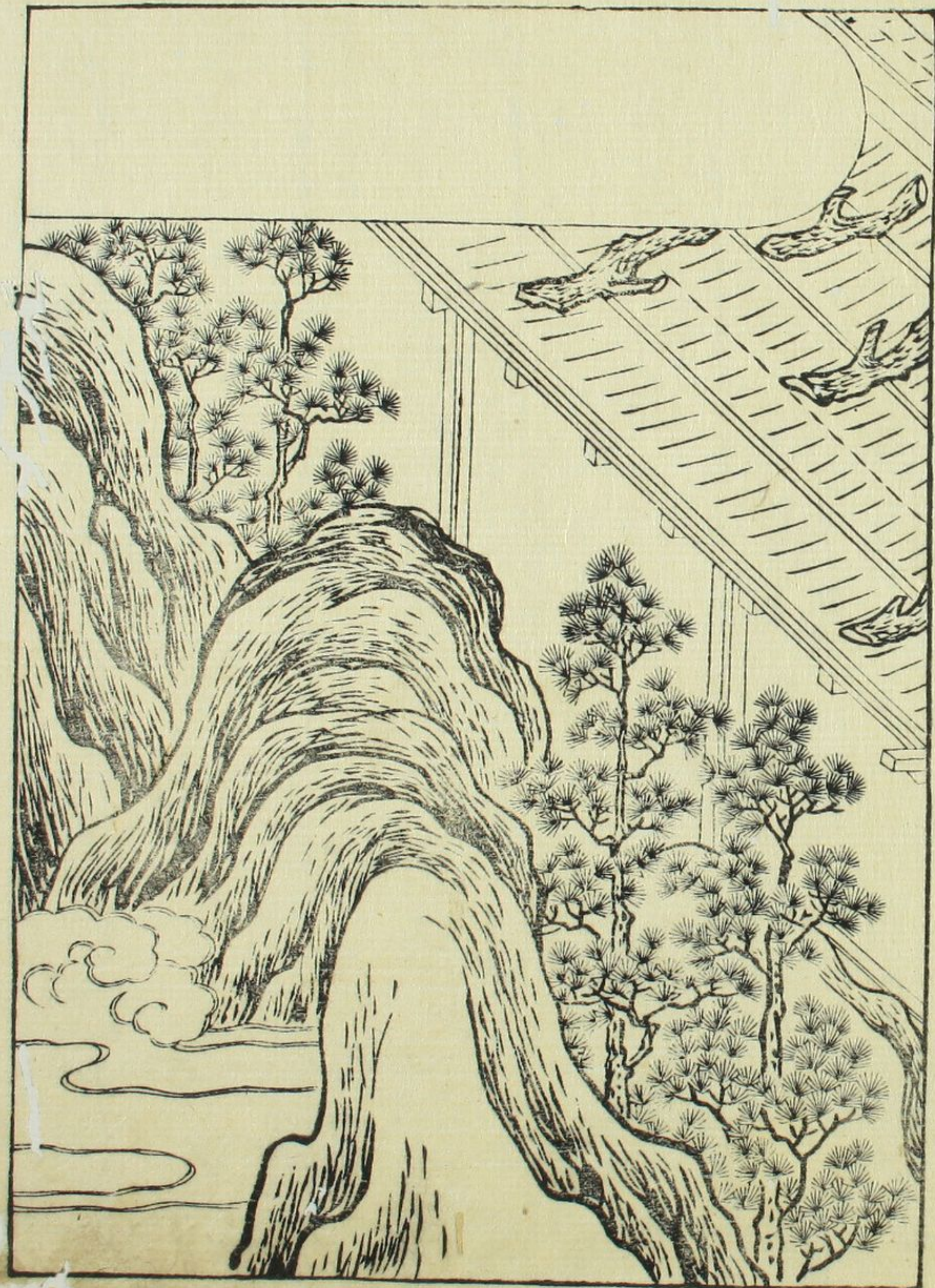
法然上人行状畫圖身五

上人の侍りて學問まなぶの事ことをしては、
大車おほくるまなり。師うし乃すなはちて後のちをしては、
永とこにしては、諸宗しよしゆのことをしては、
律りつもも中川なかつがは乃すなはちて少將せうしやうといふは、
名目なめいといふは、名目なめいといふは、
法相宗ほつしやうしゆもも藏後ざうごよよああといふは、
法相ほつしやうをしては、
名目なめいといふは、名目なめいといふは、



宗の法。故慈眼房とげんどう之分明めいめいなる法。小乘戒しょうじょうがいの事。の
 非ひ学がく生しやうあり。わが宗に理り観くわんなるあり。普通ふつうなり
 とも。学がく生しやうといふも。大乘の戒律がいりつをたてし。予よの
 法はふ沙さ法はふなるあり。これいふは。世よにひる
 く書かき越こ披ひ見みし。するは。おれをさるるに書かきを
 見みるに。これいふ。此事このことを詮せんは。いふよ。おれ。ん。ん。の
 あり。この事このことに。く。侍しやうなり。わが宗の書かきを。ごら。く。一見いちけん
 を。く。し。た。そ。れ。事このこと越こ披ひ見みし。や。り。書かきよ。の。と。ら。徳とく

乃すなは也なり。詮せんす。の。篇へん目めを。見みて。大だい意い法はふなるなり。又
 の。後のちく。自じ他た宗しやう乃なり学がく者しや。宗しやうと。取と立たの。義ぎを。各かく別べつ
 よ。ん。ん。法はふして。自じ宗しやうの。義ぎよ。遠とほく。なる。越こ披ひ見みし。これいふ。おれ
 り。と。い。ふ。ん。ん。法はふい。ん。ん。我われた。ま。し。の。理り。宗しやうと。見みた。な
 を。の。く。き。の。り。と。法はふ乃なり法はふの。各かく別べつなる。う。へ。の。諸しよ
 宗しやうの。法はふ門もん一いつ同どうなる。う。へ。の。法はふ。と。自じ宗しやう乃なり義ぎよ。遠とほく。と
 通とほす。衆しゆハ。勿なほ論ろんなり。と。お。は。さ。し。れ。き。法はふ。



けん丸

建仁二年九月十九日法苑此と記と人説くのは
私法大師の十住心論義釋よりりては
路へに義釋より遠よりりては
畏三藏の説を一行阿闍梨記よりりては
いふはたき人より未毎治よりりては
小再治乃本なり。其中より私法大師再治の本
にあり也。義釋より。極至自性心。華嚴般若等の
不思後乃境界故攝ととあり也。私法大師乃

再治の本よは般若をいふとて。多々華嚴を拵と
くあり。又十住心よは華嚴宗をいふとて。た
り。十住心といふは。不生羂羊心。愚童持舟心。嬰童
無畏心。唯蕙無取心。拔業因種心。他縁大乘心。覺心
不生心。一道至為心。極至自性心。秘密莊嚴心なり。
始の不生羂羊心。三惡道なり。これ中より修辭を
拵と。身二八人道あり。これ中より。もろくの儒教の
仁義禮智信等を拵と。れり。身二八天道あり。こ

さて老莊の教を掲と。身六の法相宗。身七の三論
宗。身八の天台宗。身九の華嚴宗。身十の真言宗なり。
一の先の一をのまてく。餘の九種は住心り。外典
内典の種とて諸教。よふそのたりに掲せり。志されハ
弘法大師の用心よりん。内外の典籍てんしょくを学ば
を学ばくまされ。これよりん。心こころも多聞たもん度たく学まなむ
こと。法沙ほっさ法ほつあり。おわゆるなり。ぞく一これ
十住心論の義より。大なる難がたあり。義ぎ釈しゃくはあり。いハ

半く理り義ぎ掲かとといひ。或あるいさし論ろんを掲かといはせり。
る哉。一家にありたり。華嚴宗は掲と。法華宗に
掲かといはせり。いさされも。いさされも。おわゆるあり
も。これ宗は掲かして。後あと家を判はんは。おわゆるあり
是非是非あり。これ宗論しゆんをなす。いさしよりいさる。
とも。これより。法華宗ハ華嚴宗よりを。おわゆる
し。いさし。す。法華宗の心り。盡じんせり。いさし。の
なり。天台宗は。いさし。華嚴宗の心り。

めてこれいあひ也。宗たるひは淺深をあらわぬ。そ
 ろくも教定判とんおんよそ一宗のなほひ。一代聖
 教よなきと淺深を判よ法つひはこれと志は
 一切經におろく釋迦一佛の取説あれとそ宗を乃
 西学より志つひは淺深殊者不同なきといひ此
 の宗は一切經といふ也。天台宗乃一切經あり。
 華嚴宗の一切經あり。乃法相三論よもなきをのく
 一切經あるへ。天台宗の一切經あるに法華

をすくれをりとするゆへ。余前の諸經は相對
 て十徳を立てる。華嚴宗は一切經よは華嚴をもち
 とされたりとゆ。之徳よは諸大系經顯道無異
 といふも。般若經は極と法相よは解
 深密經をいふ真實と云。これよをのく而解
 不同ある法なきを宗を十住心りあり。淺
 深なきをえらるる宗をいひあるとゆ。法宗の
 なるは經をかりなきを淺深をも殊者なき

立ちあがりていづくあはれいづくも世畏の義釈を
すてり強かり小約をり。又義釋は華嚴般若
種不思議の境界を指すといふは十住心論の
唯華嚴のまゝなりあはれをり。其宗を指し
て般若をせんん心不生心よ指す家も。又もちく
まはりかくのまゝなり義をもちくいそくに難辨を
くくまゝにすつるや。いま二十餘條より
かりぬん。源平乃乱よりはま。源家より住より

一より多よと家も。指しして他はさるけり。
たかあはれに私法大師よりさるまゝのせなすを
い仗の指しと云はれり。心よたより指し難
申すはまこえぬまゝのまゝも。いあへん小
はまていさるけり。いあへん大師の西へ義次。
立間よりかりぬん。板敷もあへぬ。いあへん。
いあへん。いあへん。いあへん。いあへん。
たかあはれ。大師のいあへん。いあへん。いあへん。

まづがめく。いばく海ひを志すれんぞの願はう
ちのり。おたしと仰き。海辯あり。うけは聲よ
はれ。く。入る。賢の。うら。後。見。れ。は。し。は。つ。て。そ。れ。は。た。り。
へ。く。く。く。世。を。ま。る。く。う。り。の。ま。あ。ら。ま。く。く。世。に。の。く
が。り。れ。い。大。師。賢。れ。ま。し。こ。た。ら。う。あ。く。あ。く。あ。く
古。物。を。あ。り。せ。く。い。た。あ。は。大。師。の。顔。を。予。た。の
有。よ。を。ま。た。り。く。て。あ。く。難。破。よ。る。よ。く。く。ま。を。い。ふ
と。叙。せ。し。見。多。ま。ま。い。を。な。ま。し。け。し。も。ま。ま。を。難。の。動。せ

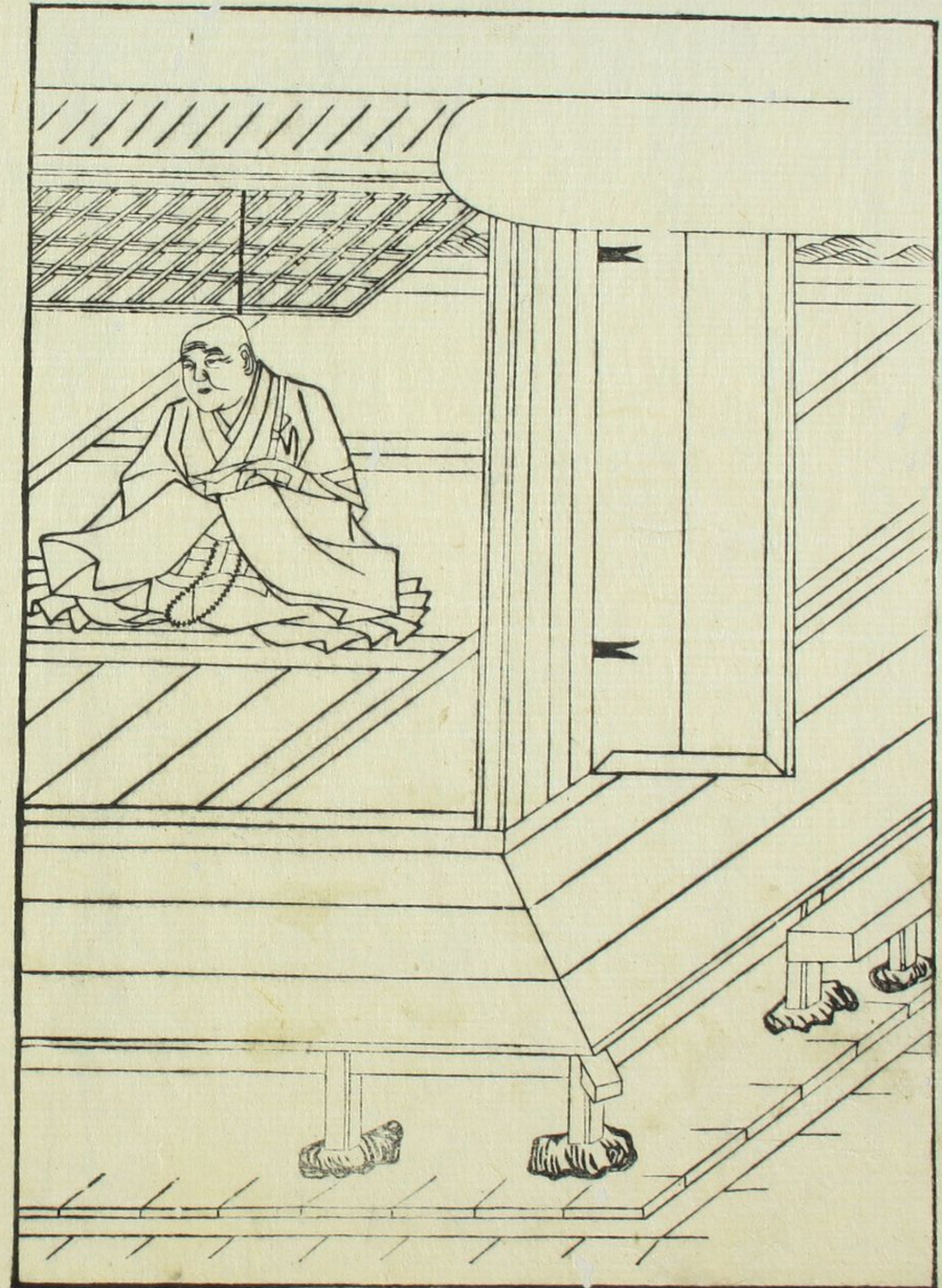
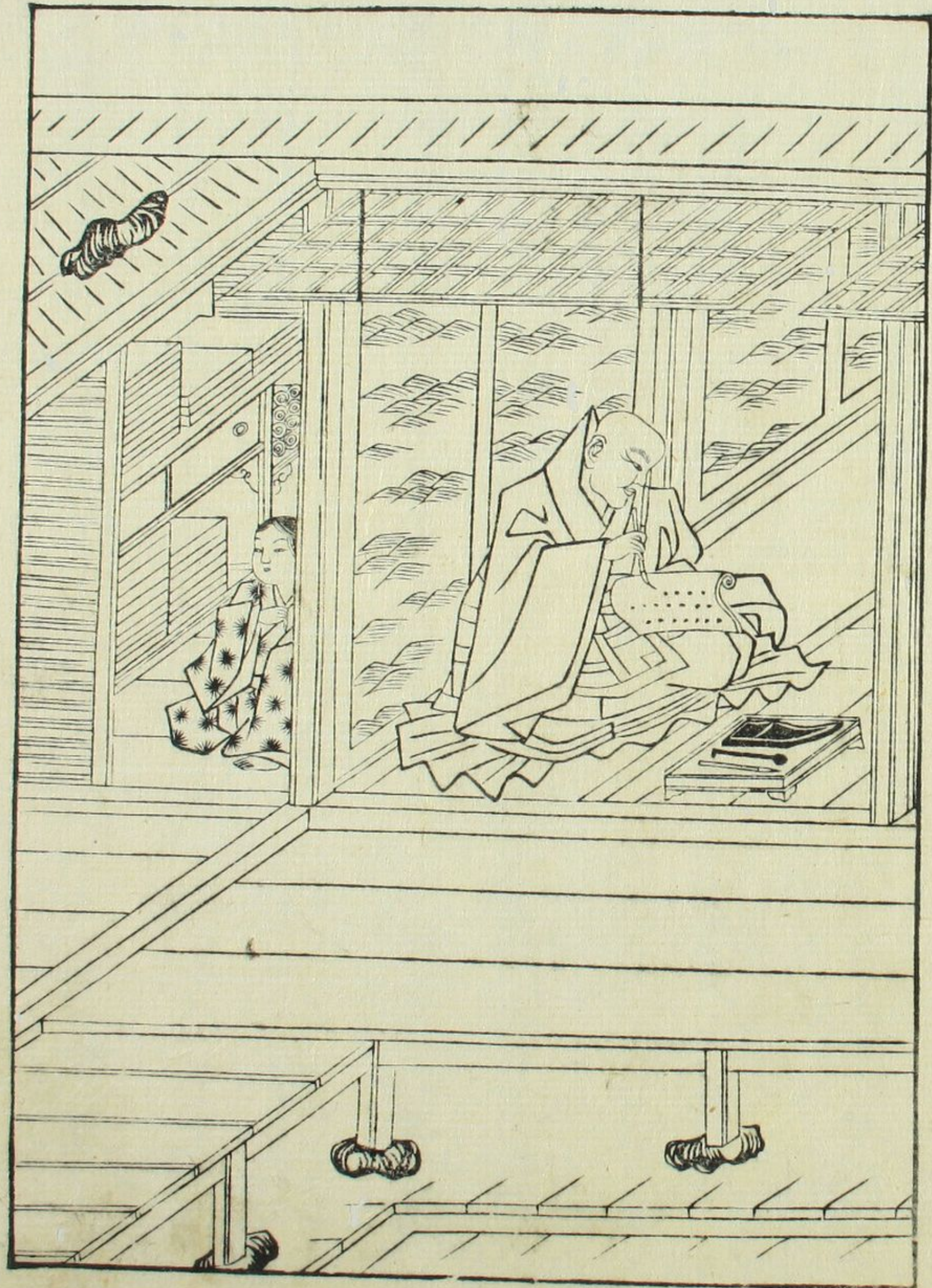
す。それ。の。中。申。く。が。よ。ひ。て。そ。れ。後。を。難。く。ま。て
は。う。ん。と。ら。る。ゆ。え。お。が。り。く。て。後。と。あ。ぬ。の。ら。り
こ。れ。を。案。じ。家。よ。難。く。申。義。に。お。大。師。れ。に。心。
あ。い。ら。あ。る。ひ。と。い。は。れ。た。あ。ひ。あ。く。ま。う。り。た。る
し。は。は。の。意。よ。か。あ。ひ。い。た。家。の。ん。あ。く。た。る。へ。く。ま。に
ま。よ。く。難。き。と。れ。ら。と。た。り。め。ま。う。ん。と。た。後。も
ま。よ。く。小。倉。親。一。強。は。く。あ。く。た。い。後。學。畏。る。く
ま。よ。く。學。生。い。あ。く。次。も。先。進。が。れ。ん。か。い。ぬ



是はたまたまありの如來滅後五百年あり。五百
 の羅漢ありて。婆沙論を法りしに九百年
 世親いて。俱舍論をつりしに。此の義破
 たり。是乃北派論ぎんは。あやちよ上古
 あり。おそ家まもれど。おほきなり。

上人せんじんを以て天台たいたいの真言しんごん戒がいを以て法ほふへりあるを中ちゆう
 川の阿闍梨あざり實範じつはんより上人せんじんの法ほふを感かんり許可きよこ
 灌頂くわんていをさけ宗しゆは大事だいじのころなりこれをはしふの
 實範じつはんへ東寺とうじの流りゆう中院ちゆうえん乃阿闍梨あざり教きやう真灌頂しんくわんていの弟で
 子しひして勅くわんの僧そう範はん俊しゆんを師しと仰おほせり事こと相さう交かう
 相さうを連れんするのそとに法ほふ他宗たしゆ乃法ほふ印いんのころに羅ら
 刹しやくなり。あつ家けよ上人せんじんを改か依えのあり後ごの二字にじ
 をいそむり。鑑真かんぜん和尚わう相傳さうでんの戒がいをうく上人せんじんの戒がい
 傳でんをうく。

乃戒法かいほふを宗しゆより法ほふへりあるを中ちゆう
 川の阿闍梨あざり實範じつはんより上人せんじんの法ほふを感かんり許可きよこ
 灌頂くわんていをさけ宗しゆは大事だいじのころなりこれをはしふの
 實範じつはんへ東寺とうじの流りゆう中院ちゆうえん乃阿闍梨あざり教きやう真灌頂しんくわんていの弟で
 子しひして勅くわんの僧そう範はん俊しゆんを師しと仰おほせり事こと相さう交かう
 相さうを連れんするのそとに法ほふ他宗たしゆ乃法ほふ印いんのころに羅ら
 刹しやくなり。あつ家けよ上人せんじんを改か依えのあり後ごの二字にじ
 をいそむり。鑑真かんぜん和尚わう相傳さうでんの戒がいをうく上人せんじんの戒がい
 傳でんをうく。



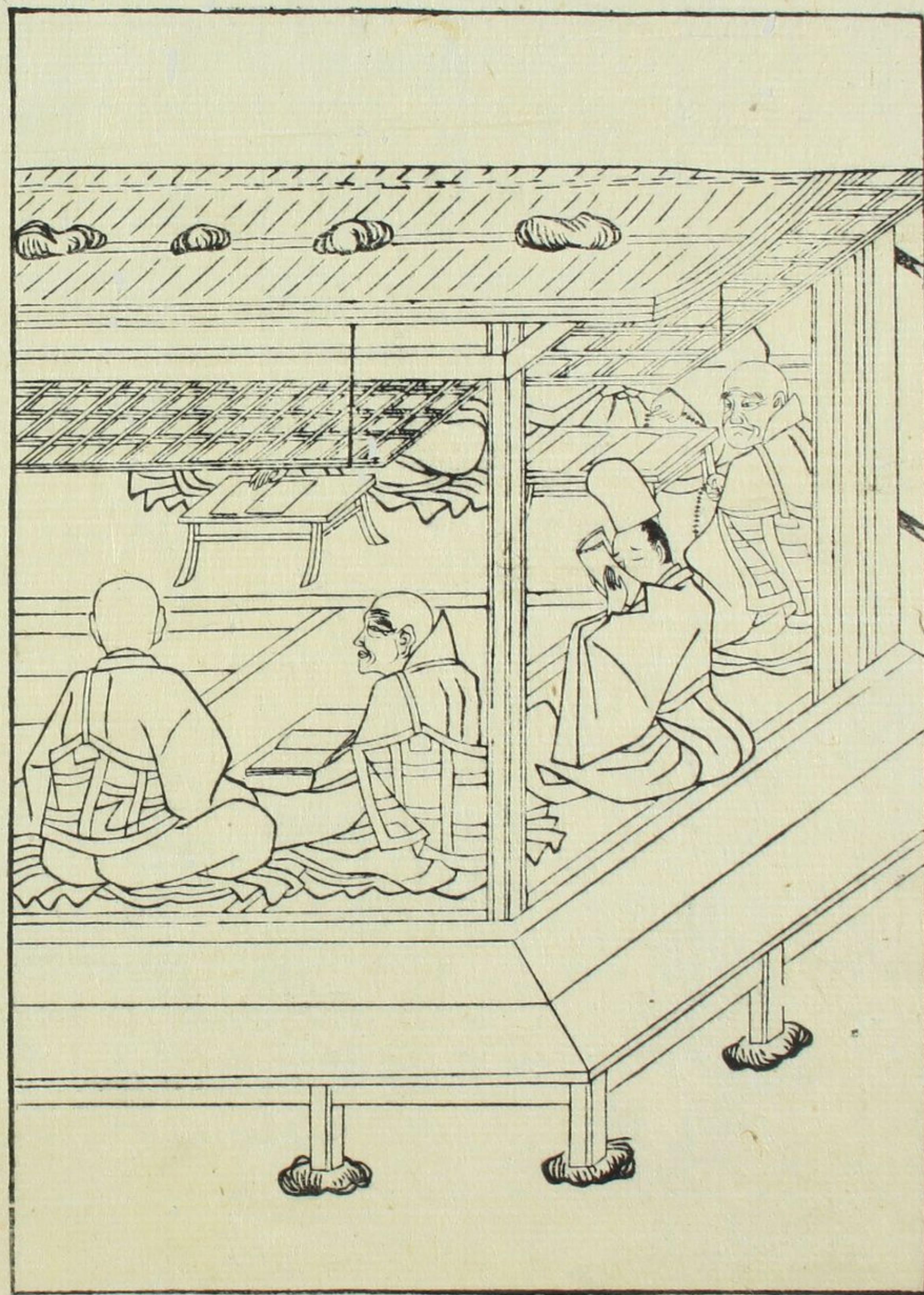
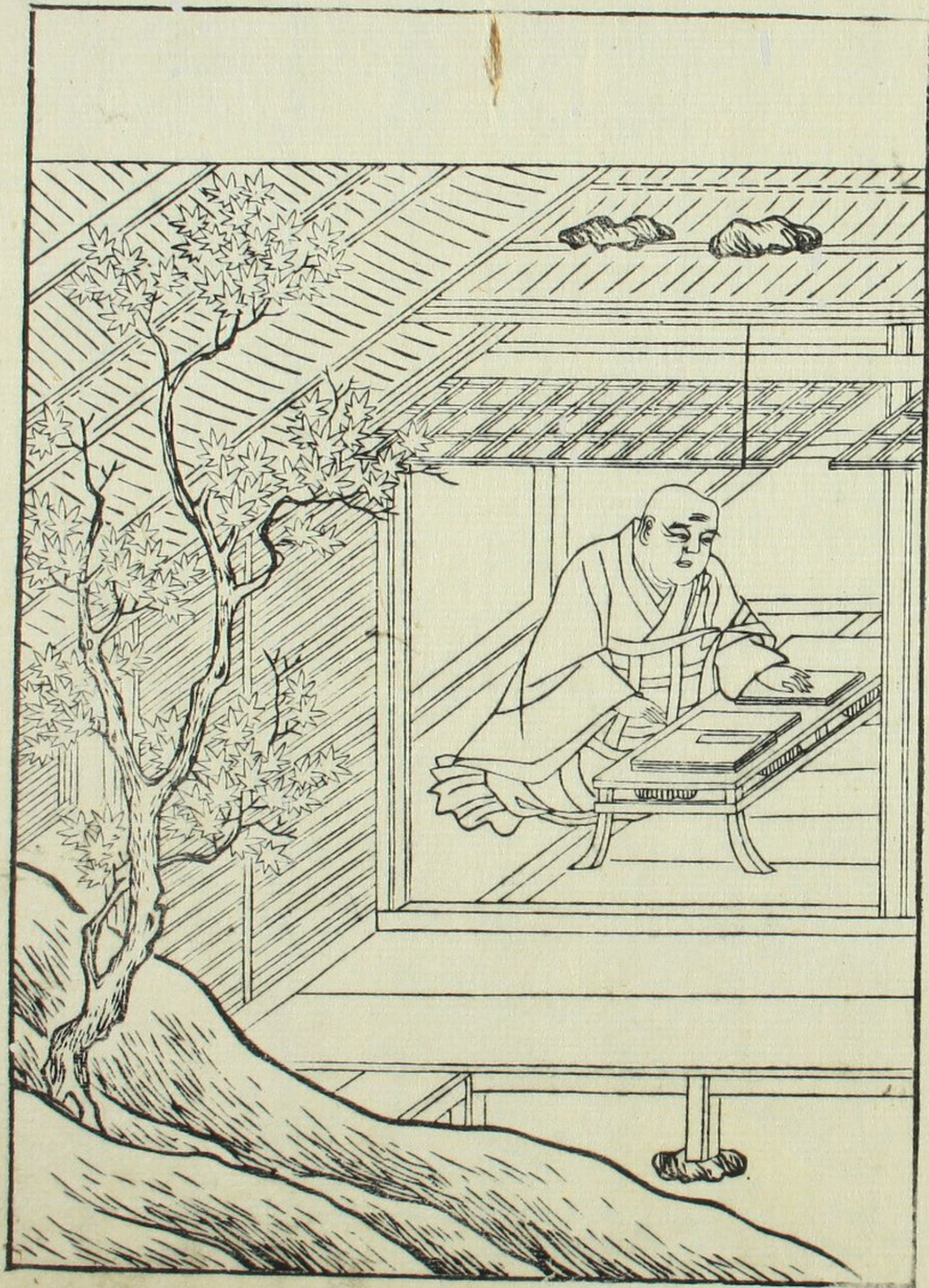
上人ちんじんが無事むじ乃すなは不た満たちまんにて也なり。又また圓えん慶けい学がく
のままここええ世よああままのの。おおほほよよをを。おお朝あさよよをを。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。
聖せい教きょう傳でん記き眼がんりりああててもも。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。
圓えんのの明めい師し觀くわん覺かく之之二に字じ哉や。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。
處ち室しつもも軌き範はんとと。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。
乃すなはちちふふああ。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。
先せん達だつああ。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。
ととちちんん。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。

く。六む戒がい諸しよ法ぽうのの正せい極ごくをを。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。
院いん乃すなはちち大だい師し。諸しよ法ぽう乃すなはちち正せい極ごくをを。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。
もも。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。
上じやう人じん変へん。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。
心しんのの戒がい外がい也なり。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。
ここ戒がいをを。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。
をを。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。
心しん戒がいもも。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。おお持もちりりのの。

居士にあつては、いふ人も法相三論を也。いふ人も
 也。自餘乃小宗の宗を也。はつては、いふ人も教者の詞
 小あつては、まゝして繩ひもうかきつゝ、深泉しんせん小つ
 里かゝつて、翅つばさのうへにまゝいふ。大虚だいこよかきつゝ、あ
 智あつては、いふ人も、宗門しゆもんよかきつゝ、いふ人も
 あつては、いふ人も、禪ぜん乃宗有故、福ふくきつゝ、いふ人も。上人
 自筆しひつの書しよいふも、あり、末学まつがくうへに、いふ人も、いふ人も。

五ノ五





或時上人月輪殿ありて山僧と桑云の事侍り
彼僧淨土宗教立派ありはいにせれ文りありて
立派を也と云ふにめりて此若守の親理の疏に附
属の文ありと答給り。重ていへて宗義をたつる
後乃こゝにみんぞやと一文よる人ま也と上人微笑
して物まの強いりきり。これ傍山より詢ての也。
實地房法中證真よこけより教語て法然守
處て返答よをよばす也申き家を法中申はる

公家法然房の物いり此と家不足云り處す
ゆあり。これ上人天台宗乃在者しるうあはる
諸家にやりてあま福くこれを習学して智恵
深遠ある事法祿の介りこれあり。返答ふは
志く物いらずとおふ解見とてこれ子へんは
申され公家此法中法より上人親正
て法門を講すゆへり智恵乃公際をわく申
されきんをこゝに戒の法門に上人相承乃

今更に法の法中堅義代時。惠光房永辦法中
を師とせられたるに。元品の妙明。妙覚智断。三感
同時断の後を立應たより。三感の義を治るるに。院
真の一代聖教を見たり。三感の義時断。元品乃能
治の義を起せば。自法立應たより。申されたるに。
そんあふへ。と。永辦法中ゆゑに。此の法ゆへに。
寫免智断の義故立と。澄憲法中題者より。此の
論強多に。監者五千餘卷乃經教をいふたる。

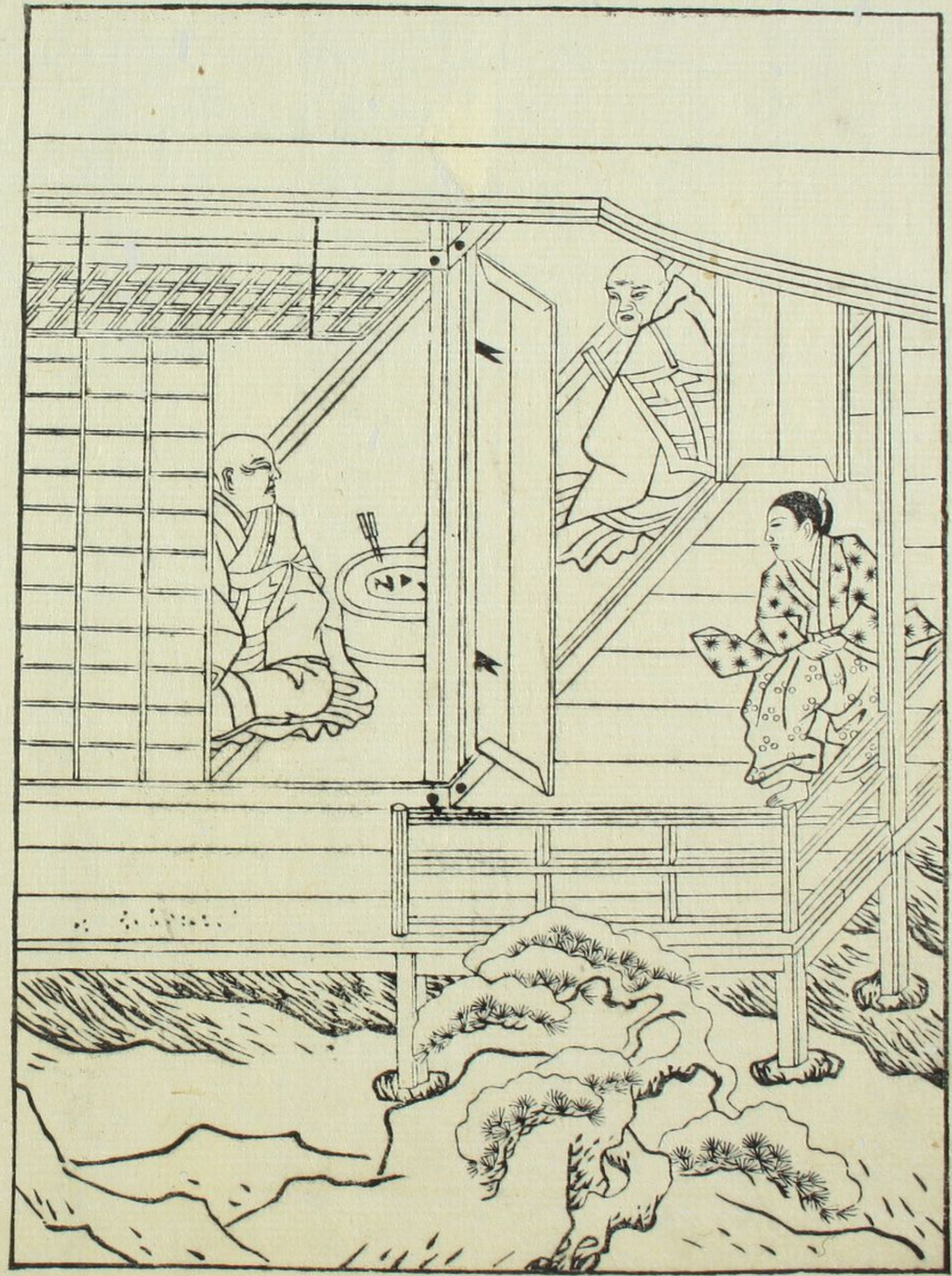
五ノ六

よ。いまも妙覺智断乃文法もす。此の法ゆへに。見
ゆの久前同音小博法を感とる。詳云。と。それ時
澄憲法中監者す。よ。智断をいふ。題者ありと。
比のをぬ。と。んや。といふ名句。申されたる。弱年
乃昔。と。れ。と。況や積学の後をや。一切經を
校讀とる。と。五返あり。と。ゆ。と。惠心院の僧教の
言。後。同。さん。と。此。將。と。三。區。の。ゆ。と。枝。露。と。此
言。の。ゆ。と。か。や。登。夜。り。地。藏。菩。薩。の。物。説。と。又。お。つ

五ノ六

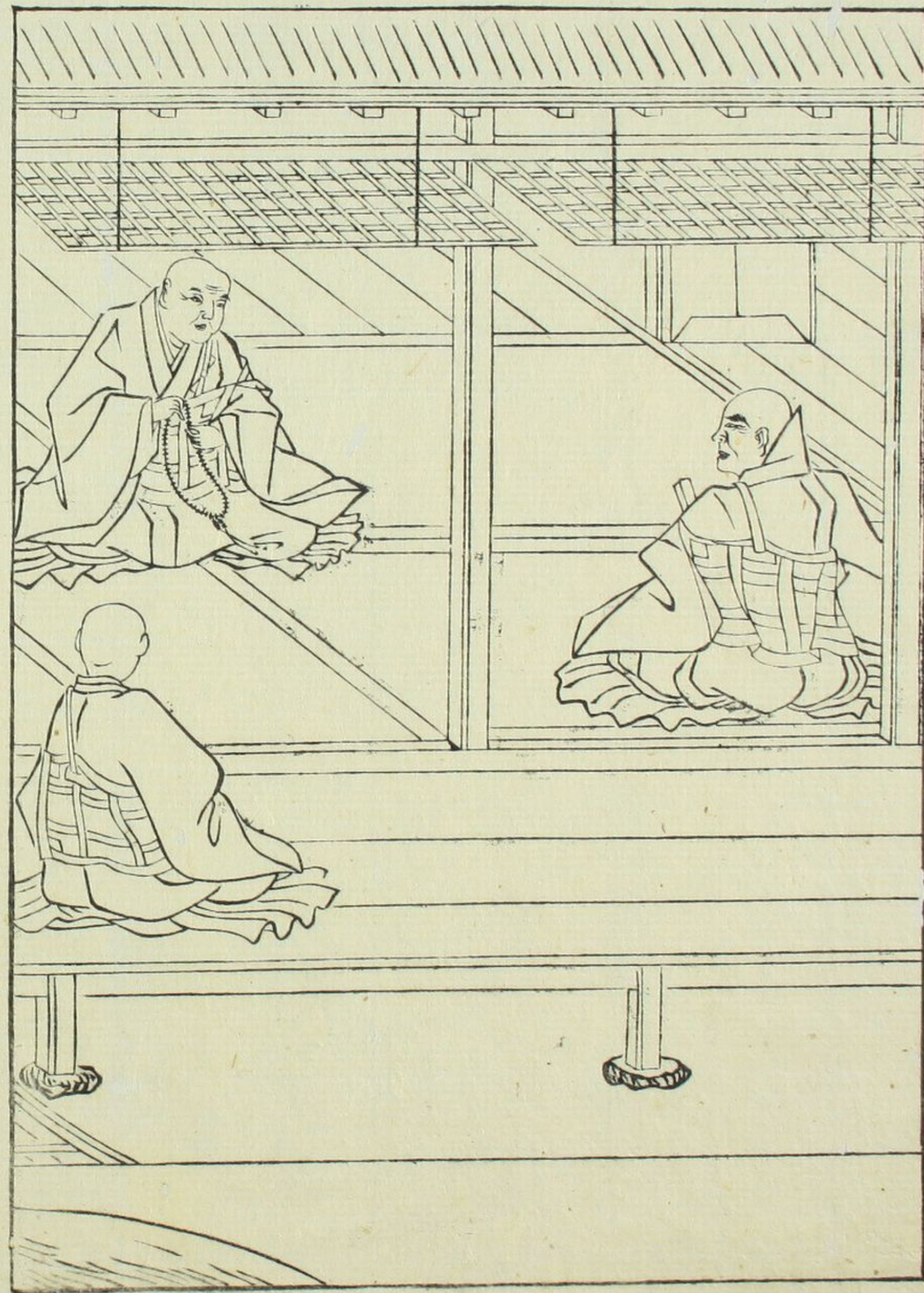
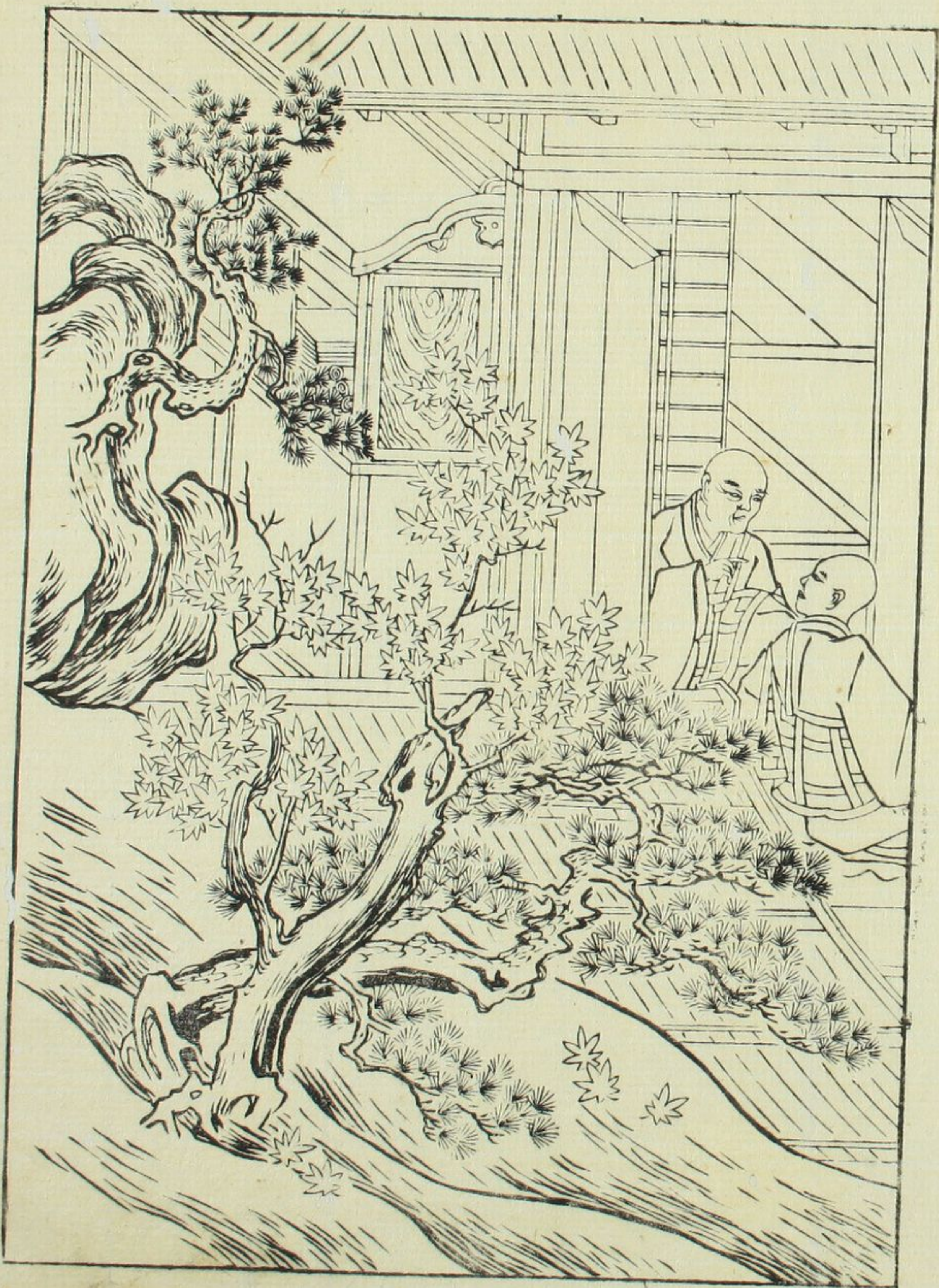
のあにふあれん。中堂よまのりく業師佛りる
ちよまのり。十禪師よ指しと尋申ふ。かなる法校
られる。業師よまのり。お師いとなくい大聖世言。
ちよの天台妙樂とく。末師をばもちわと説たり
りの。往生信をほりく。お身をまよひまのり。地多と
る。時の入地蔵乃化力とて申さる。まのり。彼は言。
上人を智恵深遠のふありや申と説らる。は。本地
乃智恵といひ。垂迹乃廣身といひ。まのり。まのり。は
た。おほえん。信り。

あつゆへなる。あつ。陰分乃称あつらり。氣練あつら
た。おほえん。信り。



上人の老は竹林房静教法下の弟子きり
く。其の才学よりそふゆへに天台法門を
申し承申せり。くつと深奥法たる此より
ふたりのちに申せし老をてうへ念佛よひまろく
志す。聖教をせん法よりいしと記す。文理乃
あまのつる事。當時の勤学もこえぬまへり。
今よあはれをたのむ山門は碩学もや。城ありま
まらふ数輩の匠をこをたぐ。隠遁は上人よ

宗の上事法を山承申せ法をてをう。給へるや
ま。あつて此をたのむえ侍り。上人のつる事
わき聖教をせん法なり。本曾れ冠者。花洛よ
乱入の事。つて一日聖教をせんまもほよは
念佛のいふ法惜く。称名以外の他事たりたり。
後学よ承しそ。あつて法をせんまもほよは

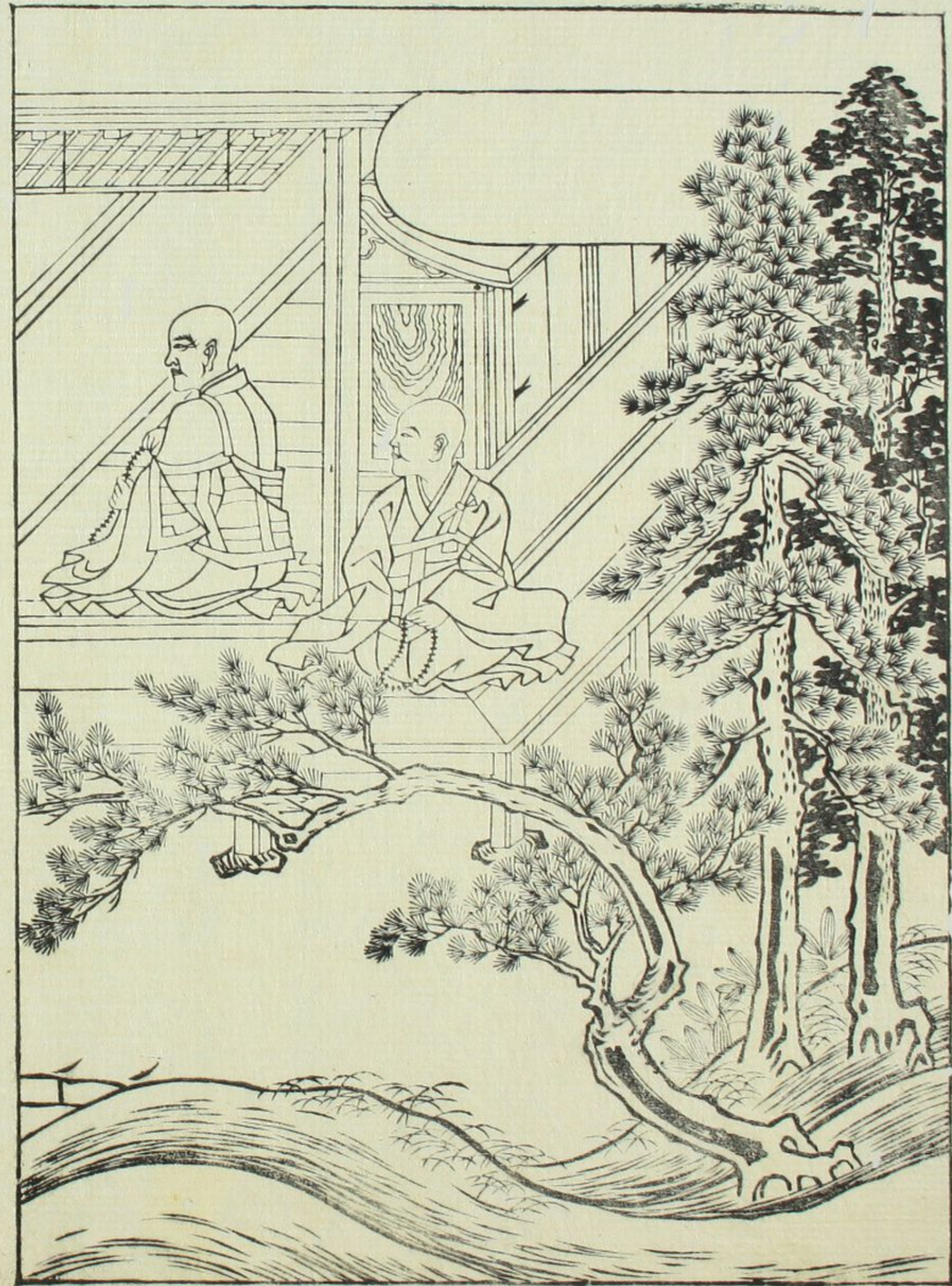
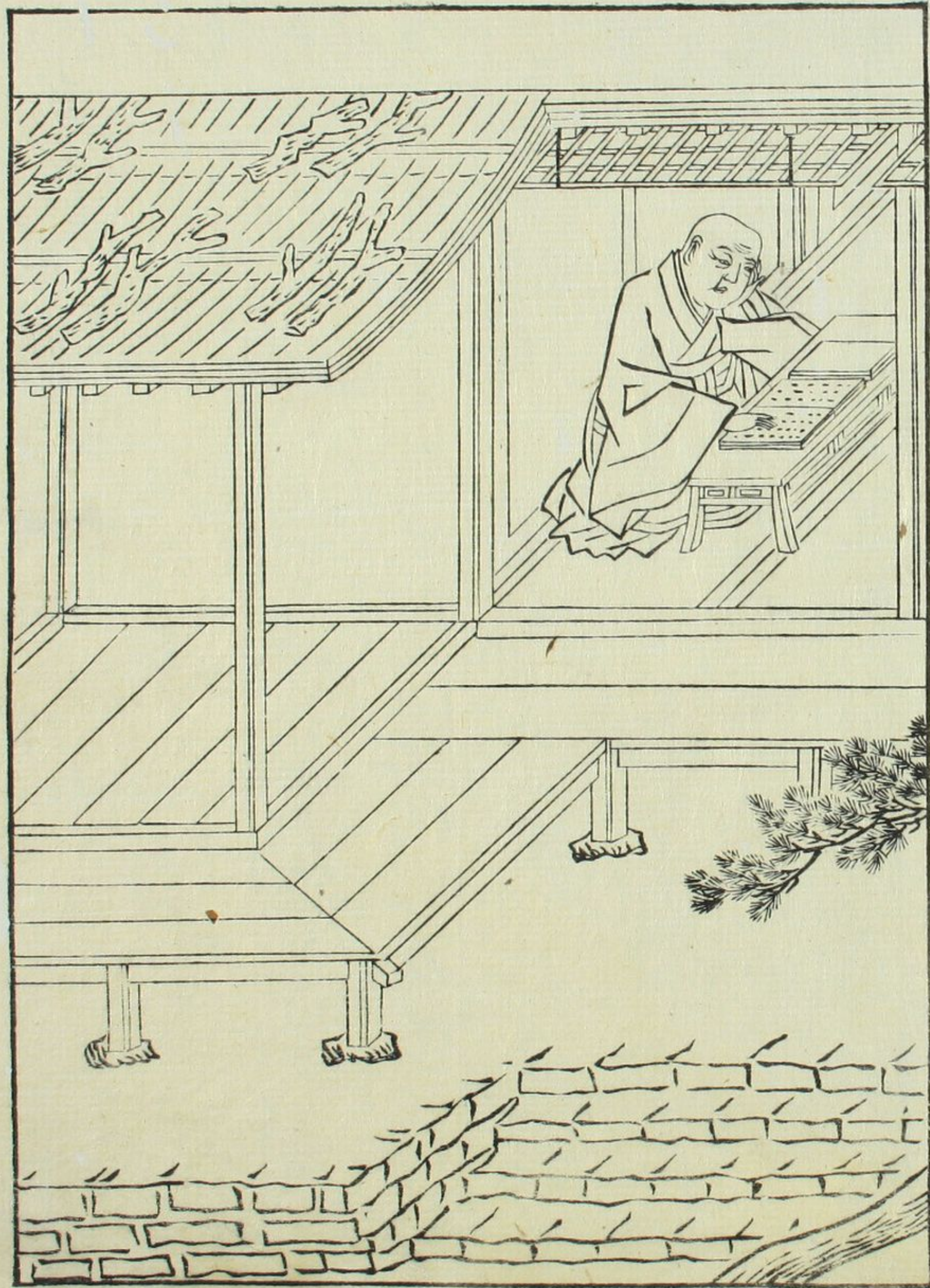


法然上人行状畫圖才六

上人聖道諸宗の要門にあきつゝのれり。は法相
 三論の碩徳。而して小の義解を感し。天台華嚴の
 的迹。一こよの宛ををふじ。まのれををををを
 たりつらむ。身心をを。法順次解脱の要
 路。故にんためふ。一切経をひまきるぬあふ。は
 五趣あり。一代の教迹。法をを。法をを。思惟
 志をを。のたをを。のたをを。のたをを。のたをを。

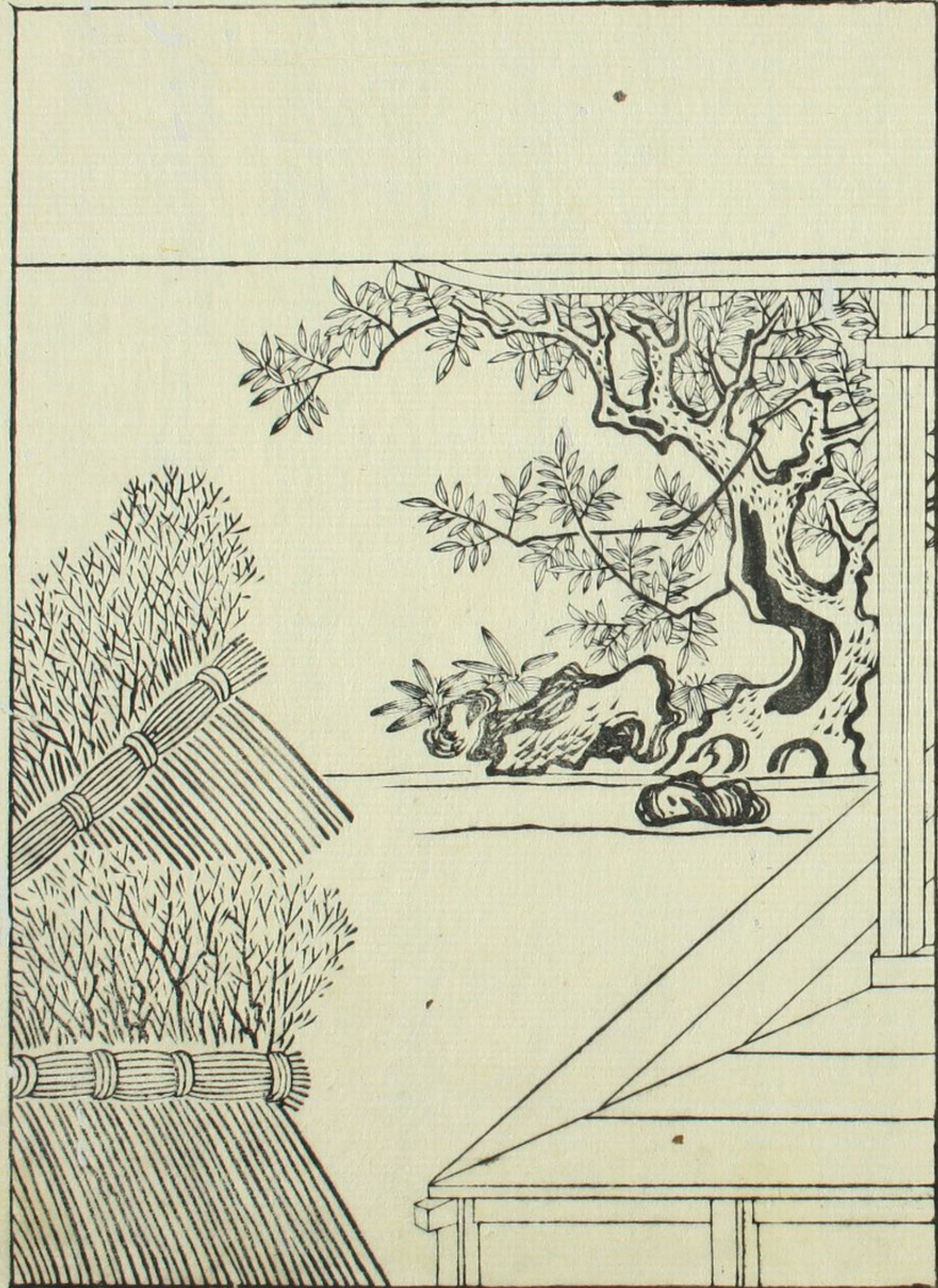
乃往生要集。えんく善導和尚の釋義。はてして
指南とあり。これよつきてひらた身證なり。これ親よ
ハ。乱想の九支称名。の行りよりして。順次。淨土よ
生。ゆるまじひ。戒律。して。九支の。お難を。ゆるやすく
よ。免られり。藏經。枝葉の。おまじり。これをと
か。ゆ。とい。へ。とも。ゆ。り。わ。た。身。證。と。三。返。は。わ。り
一。心。專。念。弥。陀。名。号。行。住。坐。臥。不。向。時。節。久。近。念
と。不。捨。者。是。名。正。定。之。業。順。彼。佛。願。故。乃。文。よ。り
て

甲。く。未。世。の。九。支。称。隨。乃。名。号。を。称。名。は。の。佛。れ
願。り。お。ま。じ。り。た。ふ。往。生。證。に。通。り。お。り。とい。ふ
こ。ゆ。り。の。證。お。も。ひ。と。ゆ。ん。証。ぬ。お。ま。じ。り。の。り。と。兼
安。五。本。の。春。生。年。四。十。三。お。も。ら。ご。う。あ。よ。餘。行。を
す。く。一。向。り。念。佛。の。ゆ。ん。證。ひ。よ。ら。と。



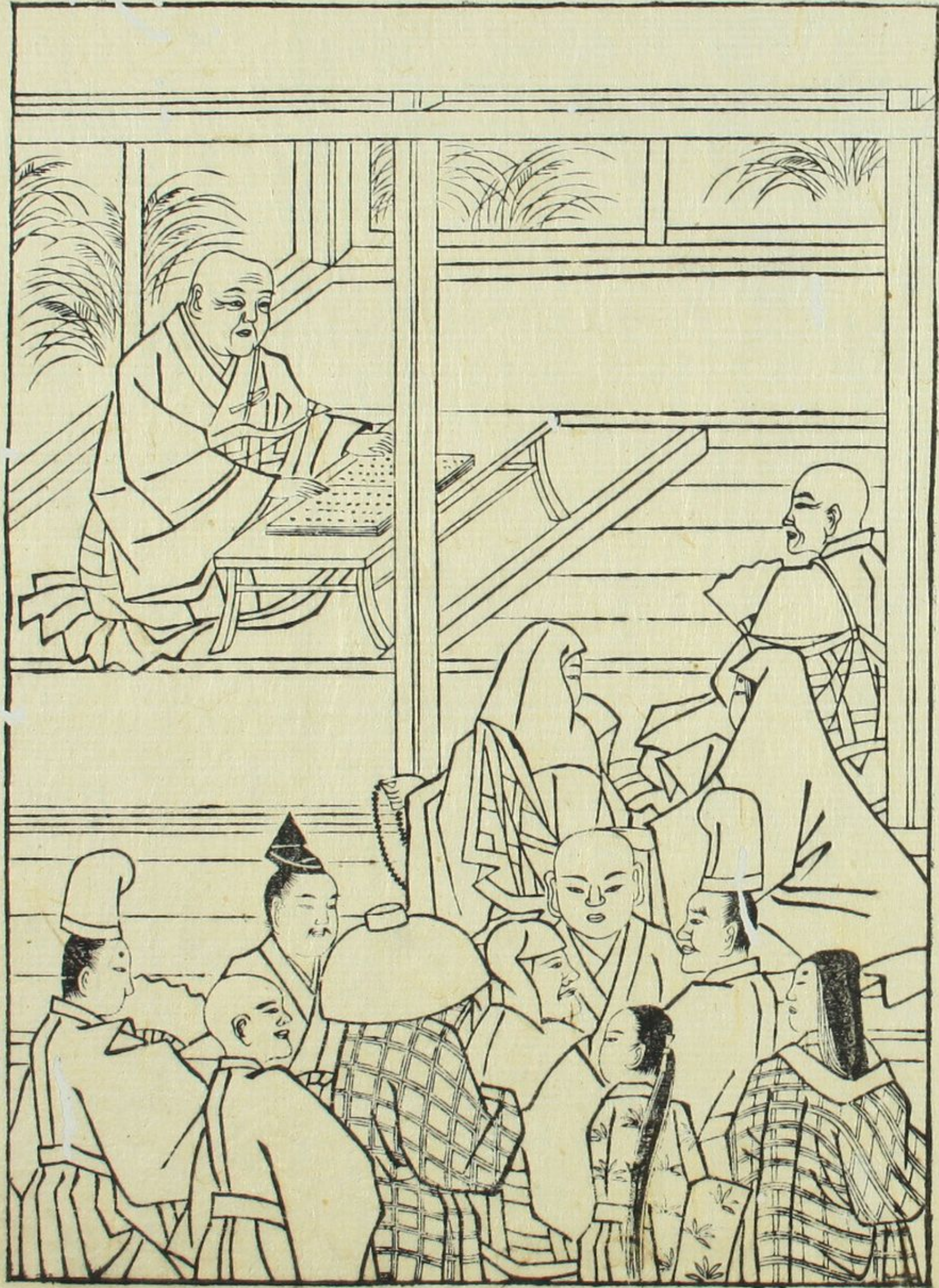
ある時上人往生の業よは稱名よすまじり行ある
處と申す處を慈眼房ハ觀佛とくまじり
の故の稱名ハ本願の行なるゆへまじ
るべきよりをまじり申すまじり慈眼房又先師良
忍上人を觀佛とくまじりところおほきされり
とて稱名ハ上人良忍上人をまじりこそむまれ
られ也申されまじり慈眼房立一たまし
もれも善導和尚之上來雖說定散兩門之益望

佛本願意在衆生一向專稱彌陀佛名と釋したま
ゆる稱名すまじりといふことあまじりこれ聖
教をいふゆへに後一語をくまじり申されたる





乃跡ふもしたり。



戒時上人おほきんくくも誰の志あつらひ
あひの法の教法被信く法れは業を修とあ
ふて佛教おほくといふも。取捨戒定惠の三学を
すぎ深し謂小乘乃戒定惠。大乘の戒定惠顯教の
戒定惠密教乃戒定惠也。法りわがこれ方を
戒行よをいて。一戒をそぬも。法禪定よをいて。
まられをえず。人師教して。尸羅清浄なるが
三昧現前を法といひ。又九定の心。物よ志んて

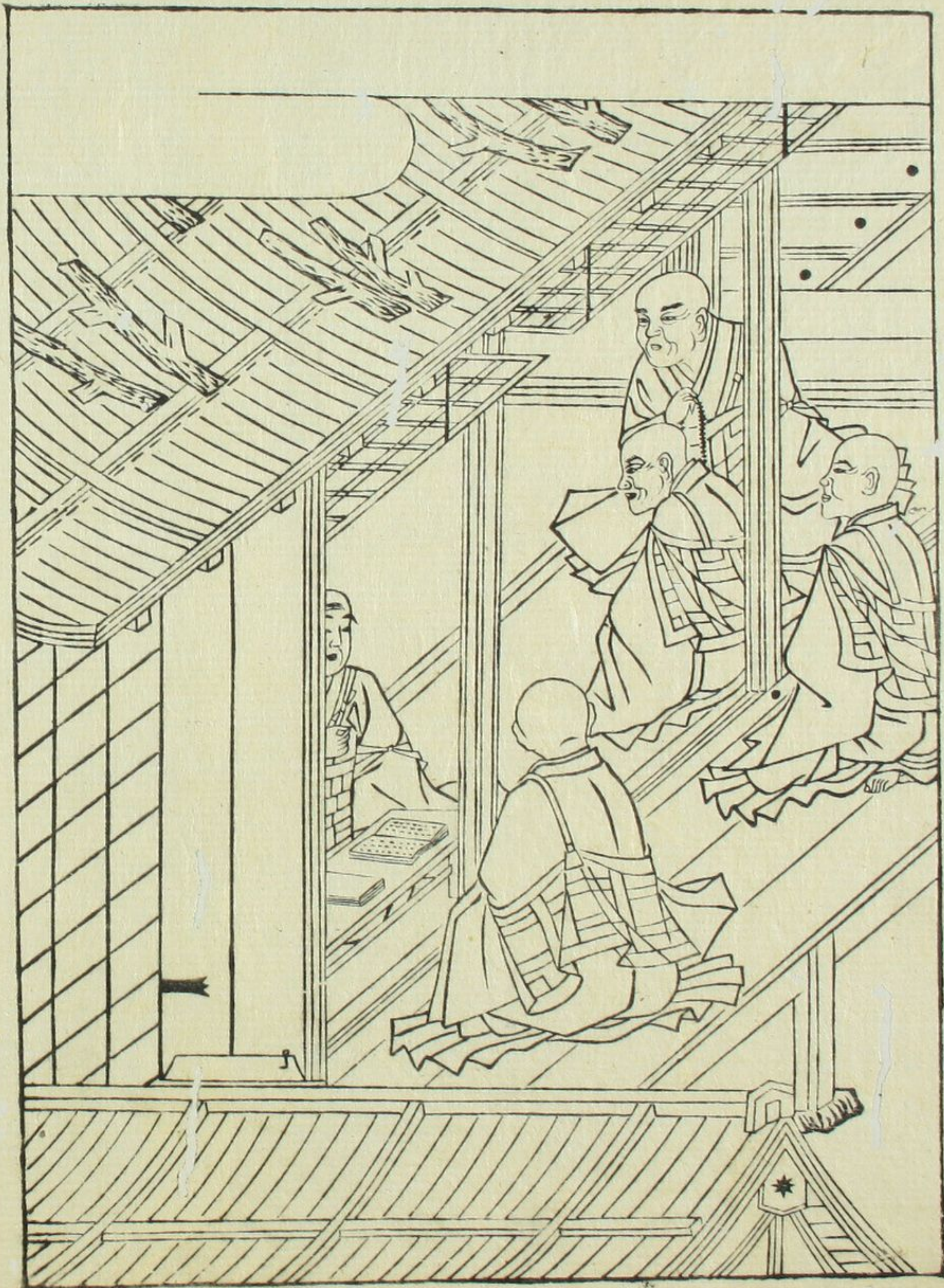
うの里屋より。もくを猿猴の枝り。法しよが
まよへて教乱して。動やすく。一法よまらざ
無漏の正智。あふより。おこんや。若無漏の智
初あく。いんく。悪業煩惱乃まづる。法くんや。悪
業煩惱のまづる。法めずは。なんぞ生死繫縛乃
男を解脱と法く。法えんや。法ま。法のめす
あれ。いんく。いんく。世帯。こ。法。ま。す。て。ふ
戒定惠の三学れ。法り。あ。法。い。れ。三学。あ。つら。

我らも相應する法門ありや。我身は堪へり修行
あるは。よろしの智者なりとせん。諸の学者も
さういふに。なうしあふもたう。志あすに。我も
なり。然るは。びさく。経藏より。かたし。聖教
よひ。こゝ。まつ。し。びさく。し。善導和
尚の觀經の疏を。一心專念。稱隨名号。行住坐臥。向
時。久を念。不捨。老。是。又。正定。業。順。彼。佛。願
故。といふ。文を。え。る。の。ち。お。ま。ご。お。く。乃。世。智。代

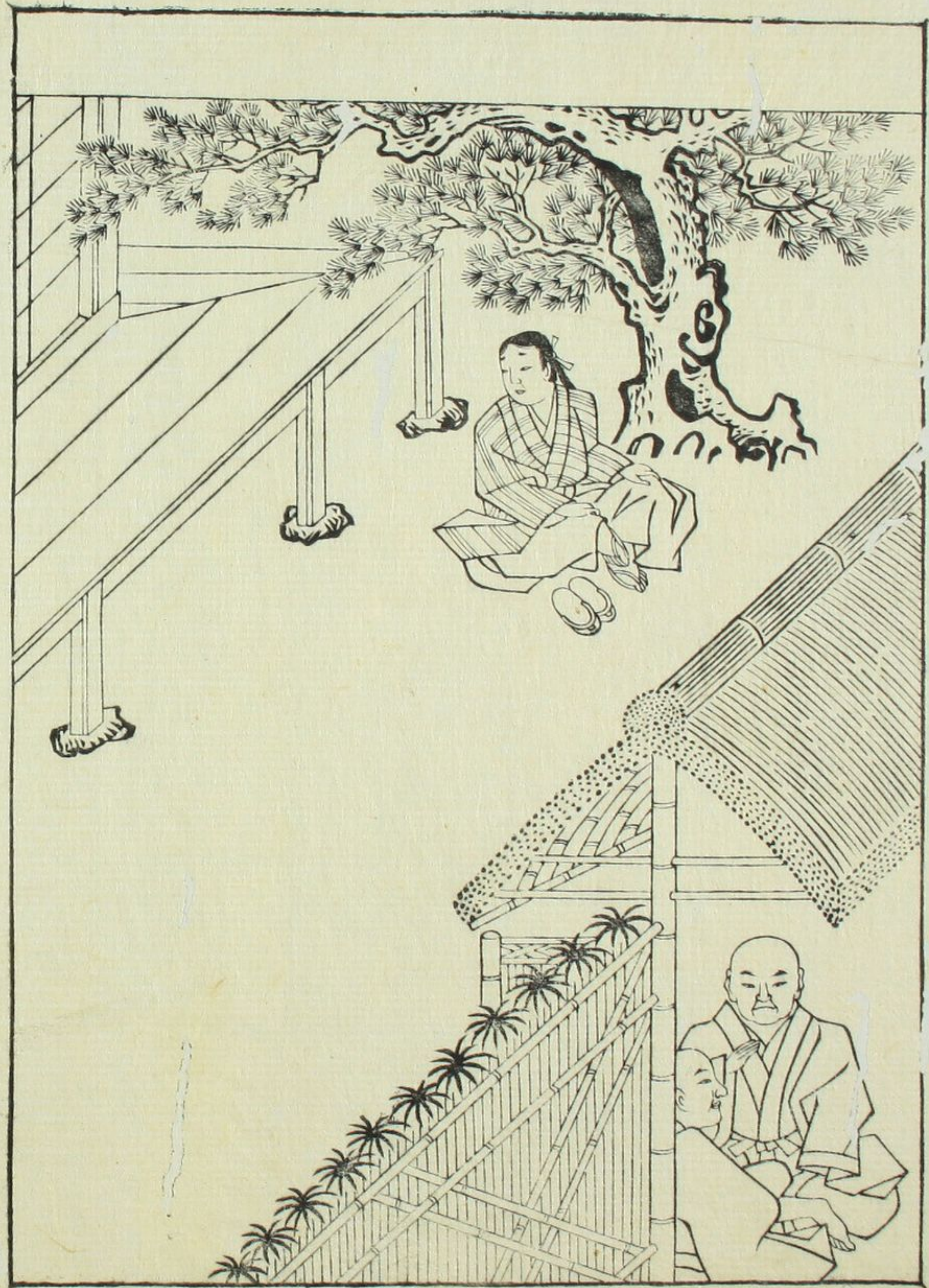
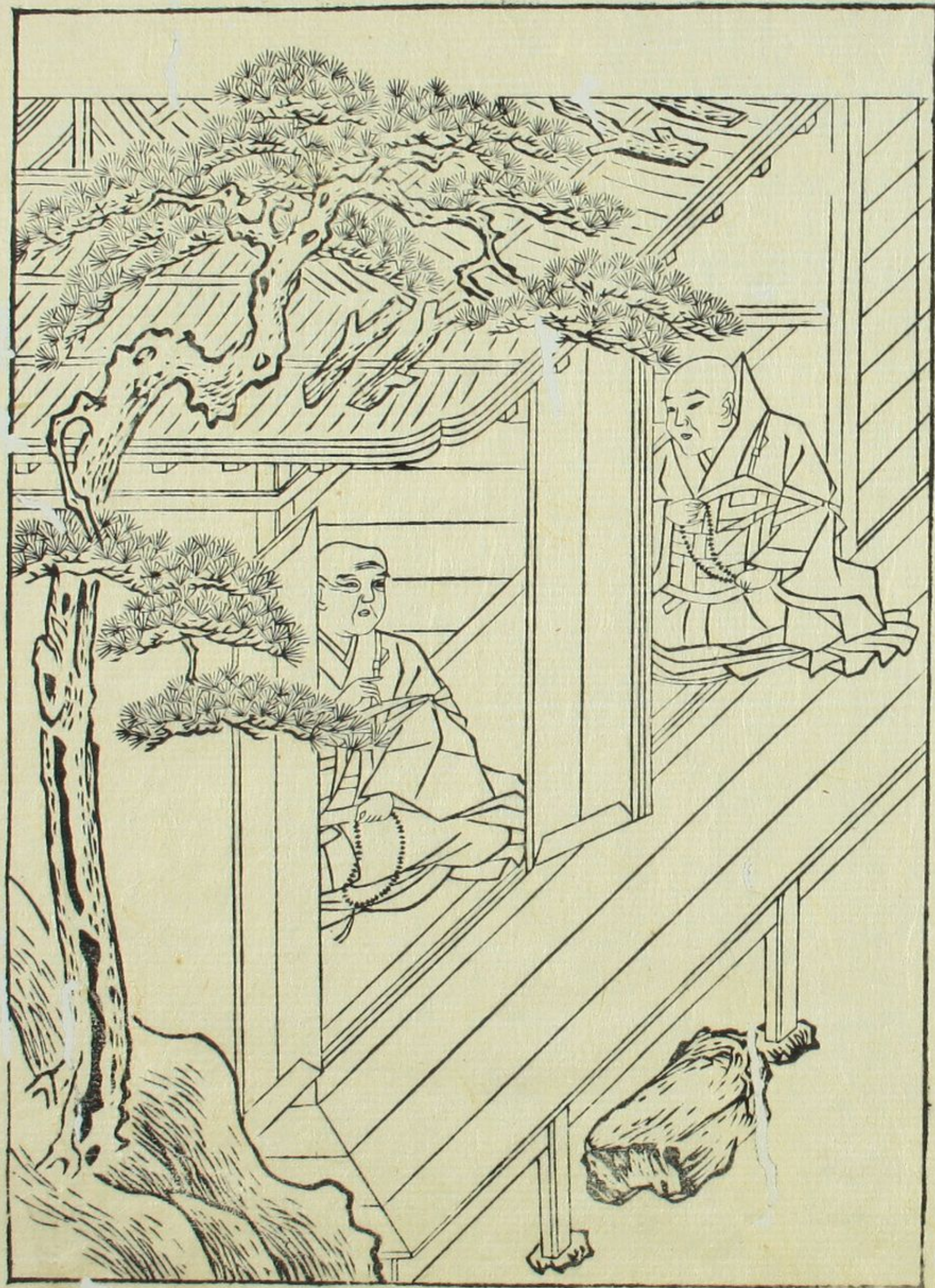
身へ。傳。り。こ。れ。文。は。あ。ま。ぎ。ま。う。こ。れ。と。い。は。れ。ぬ
の。こ。て。念。を。不。捨。乃。稱。名。を。修。す。此。定。往。生。業
因。り。備。ゆ。り。も。善。導。代。遺。教。を。伝。む。の。こ。に
あ。は。れ。又。あ。つ。く。稱。隨。名。弘。願。順。彼。佛。願。故
此。文。少。く。魂。り。を。こ。ん。ふ。く。然。る。に。惠。心。乃
先。德。の。往。生。要。集。を。ひ。り。を。よ。往。生。之。業。念。佛。為。本
と。い。ひ。又。凡。人。の。妙。行。業。記。名。文。も。往。生。之。業。念
佛。為。先。と。い。ひ。り。覺。起。僧。教。惠。心。の。傳。教。と。い。ひ。て

の法そとく。亦また乃すなはち念佛にぶつに。これ事ことは法ほつ乃すなはち念佛にぶつの法そとも
こ此こ法ほつを乃すなはち念佛にぶつとやさんと。惠めぐみ心こころ乃すなはち僧そう都とこころ
れ給たまり。こ此こ法ほつ乃すなはち念佛にぶつの法そとも。こ此こ法ほつ乃すなはち念佛にぶつの法そとも
稱しょう名なを乃すなはち念佛にぶつとや。往生おんじやう乃すなはち念佛にぶつの法そとも。稱しょう名なを乃すなはち念佛にぶつとや。
これよりして一生いっしやう中の念佛にぶつ。その教しやくを乃すなはち念佛にぶつの法そとも。こ此こ法ほつ乃すなはち念佛にぶつの法そとも。
俱く照しやう遍へんあり。乃すなはち念佛にぶつの法そとも。然しか則しか源げん宣せんハ大だい唐たうの善ぜん
導だう和尚わうしやうの乃すなはち念佛にぶつの法そとも。乃すなはち念佛にぶつの法そとも。乃すなはち念佛にぶつの法そとも。
德とくの乃すなはち念佛にぶつの法そとも。乃すなはち念佛にぶつの法そとも。乃すなはち念佛にぶつの法そとも。

長日六萬返なり。死期やうな。ちづつよりして
又一萬返なり。長日七萬返乃行者あり。乃
おのまじき法。

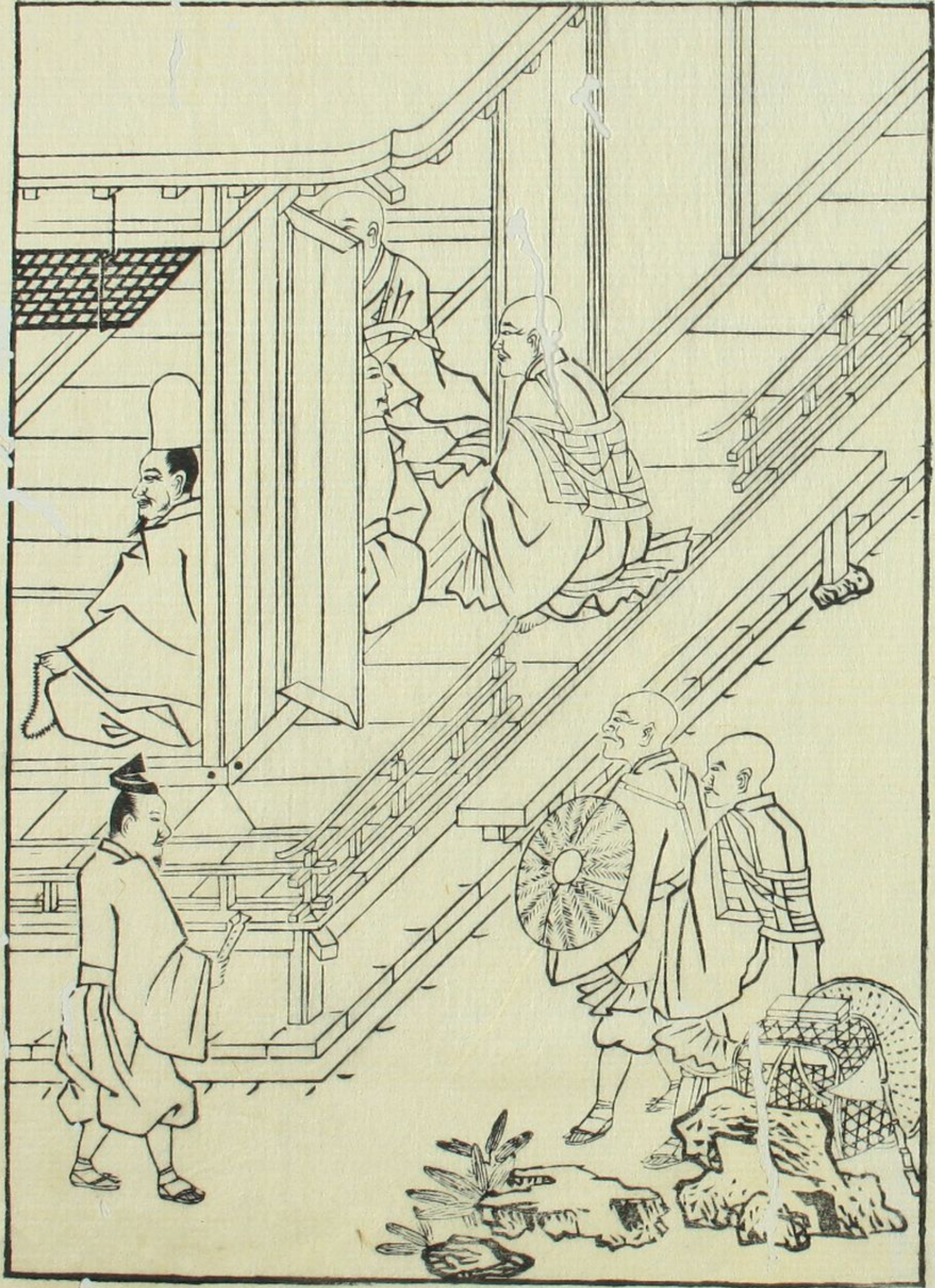


上人の念佛七萬遍よたらぬくのらひ昼夜よ練り成
 めしつらむのむねもたはむとていひし法の
 向をせしむ申せむたはむとていひし法の
 てい念佛のこゝろよこゝろあり給ふがかりあり
 ありなる一向よ念佛をこゝろをたはむのむねも
 ちん。

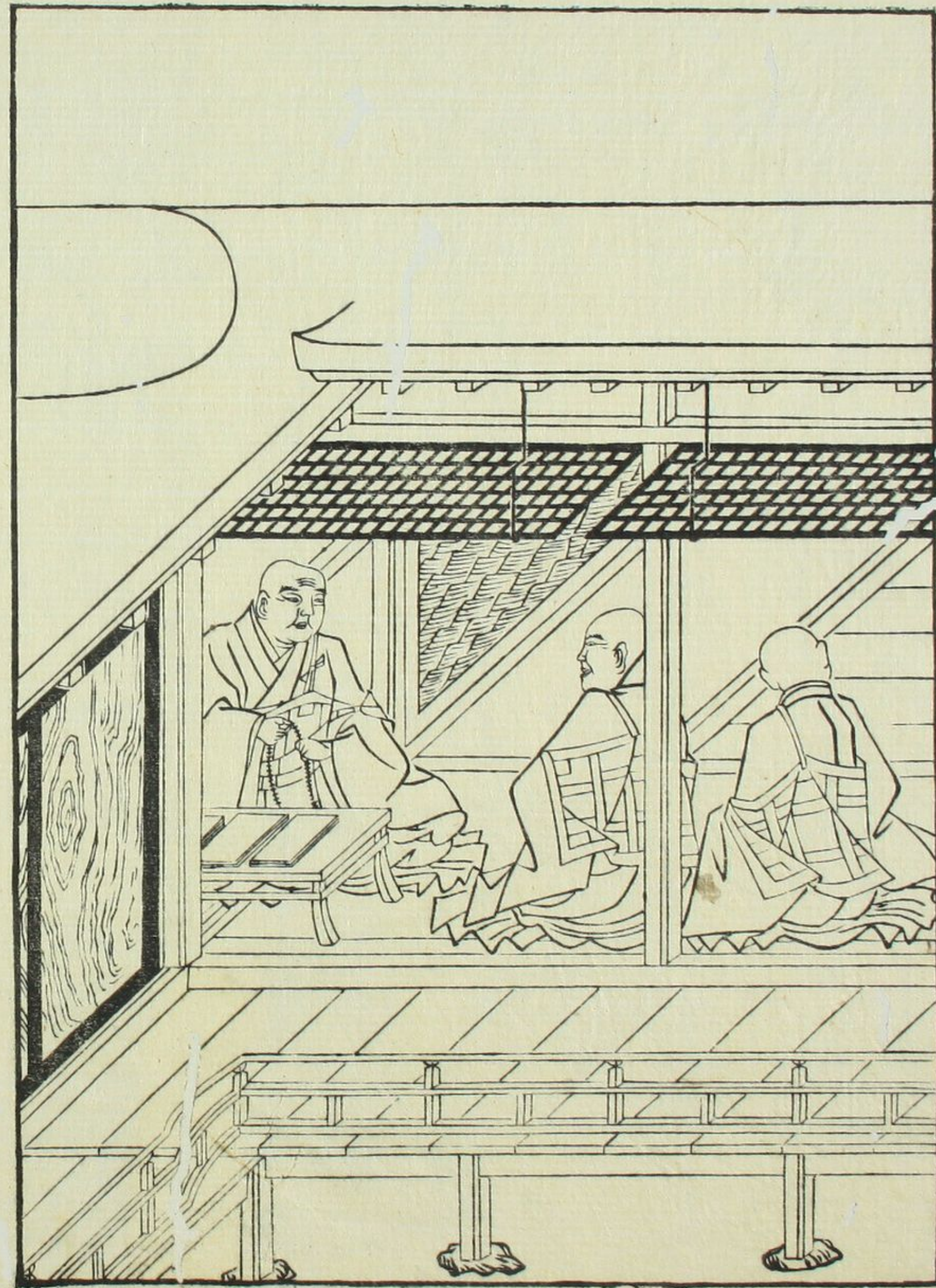
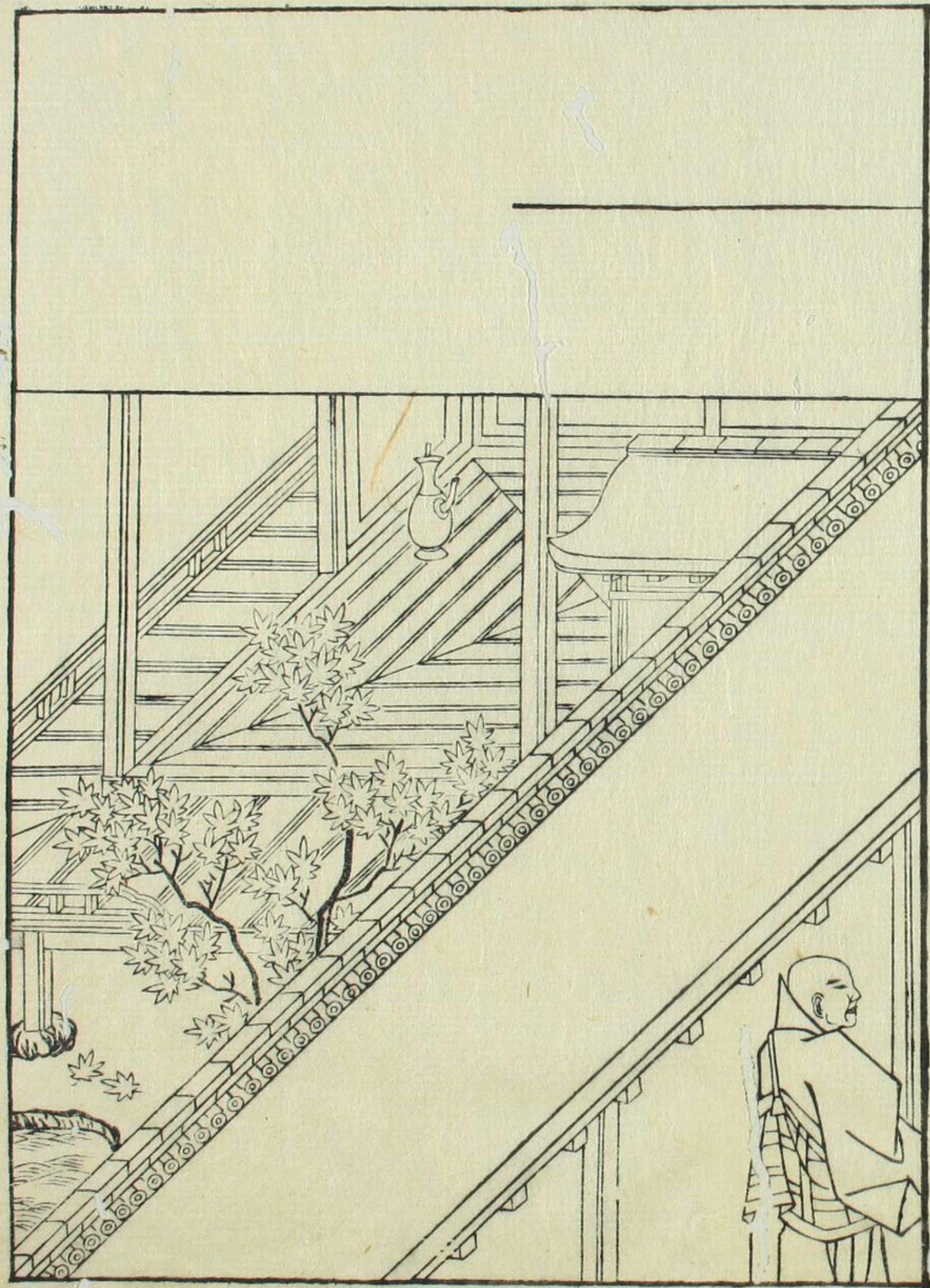


上人戒持りてのほく。浄土宗はるは
心。九支の報はるじ。あつては。あつては。あつては。
なり。一。天台よ。九支浄土よ。じ。あつては。
を。あつては。あつては。あつては。あつては。
え。法相よ。浄土はる事。あつては。
も。九支の往生はる。諸宗の西。あつては。
い。も。あつては。九支報よ。あつては。
ゆ。よ。善導乃。あつては。浄土宗はる。あつては。

す。あつては。九支報よ。あつては。あつては。
よ。あつては。あつては。あつては。あつては。
と。念佛往生はる。あつては。あつては。
い。あつては。あつては。あつては。あつては。
事。あつては。あつては。あつては。あつては。
報。身報よ。あつては。あつては。あつては。
り。あつては。あつては。あつては。あつては。
あ。あつては。あつては。あつては。あつては。

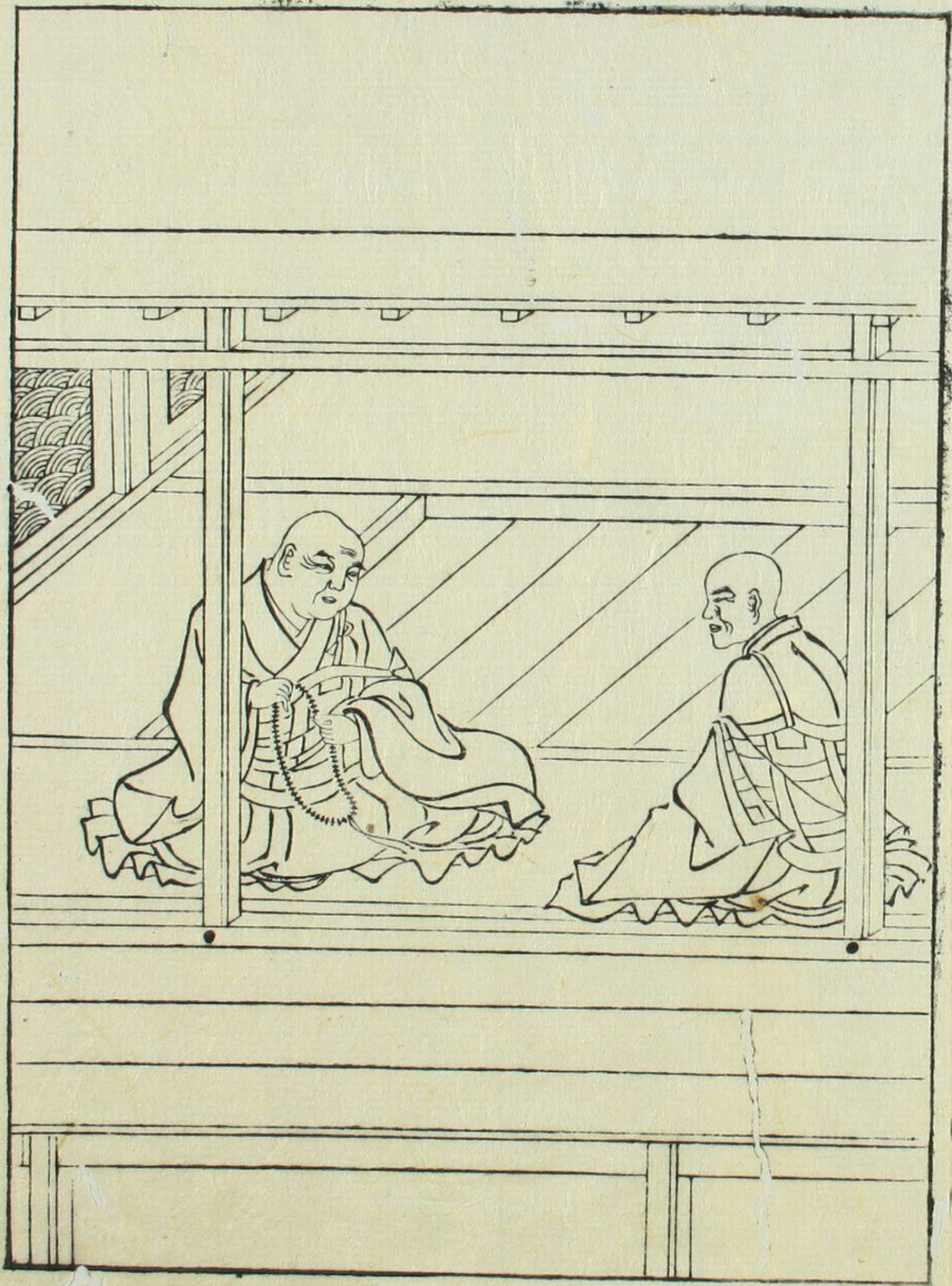


ちかづれ、女顔の不思議もあつた。おれがいたなり、あつ
 ても、善導和尚の釈後よませせて、かしく報身報土
 の後を立よと、これあつて、孫他のあつてあつた。
 おれがいたなり。



上人播磨乃信寂房よ。おんせうれんをいふに宣る
れ二の傳ををどりしうへく。鎮西に宣る。坂東へく
し。坂東の宣る。鎮西へく。鎮西に宣る。坂東へく
わんやとの傳り。信寂房よ。うへく。宣る
よも傳へり。うへく。宣る。うへく。宣る。
と申す。鎮西の房の道理を志せる人れ。やんせう。
帝王の宣る。釋迦乃遺教あり。宣る。宣る。
といふ。正像末の三時の教なり。聖道門乃修行ハ。

正像の時with counterに教なるがゆへり。上根上智のともがしに
あざれど。證しんどがし。たふへく。西國乃宣る。宣る。
淨土門の修行ハ。末法濁乱の時れ。教あり。ゆへり。
下根下智れ。ともがしを宣る。これ奥列乃宣る
れ。とも。志せる。三時相應の宣る。れを。たふ
あざれ。大原の。聖乃淨土れ論談あり。に
法門ハ。半角の傳あり。とて。機根を。源
宣る。宣る。聖道門ハ。ふく。といふ。時よ。め



きは、いまだ機り、のれ、浄土門のあつたよ、
 社も、苗根よ、まひ、底と、いひ、と、末法百
 年餘、経悉滅、弥陀一教、利物偏増の道理よ、おま
 え、人、信伏し、ま、と、何、ら、お、ま、る。

震旦よ。浄土法門をのぶる人師おほしといへども。
上人唐宋二代の高僧傳の中より。曇鸞道綽。善
導。懷感。少康。乃五師をぬきいでて。一宗乃相承。後
きて。法苑。其は俊。系。房。重源。入唐のまじ。上人仰
羅刹。いづく。唐土よ五祖の影像あり。うまも。法苑
をや。よ。と。ゆ。し。と。よ。ま。し。と。よ。り。と。渡唐乃ほ。あ。ま。ひ。く。
その。秘。も。と。せ。る。に。上。人。の。位。ぶ。ん。ず。と。り。し。し。し。
五祖を一補。よ。圖。と。法。影。像。を。ほ。し。り。重源。い。よ。く。

上人の内。隘。冷。然。ある。こ。の。法。志。法。の。み。南。麻。寺。其。曼。陀。
羅。彌。陀。如。來。化。尼。と。な。り。と。く。大。炊。天。皇。乃。法。字。天。
平。實。字。七。年。よ。な。り。し。り。と。法。苑。の。靈。像。乃。序。正。
三方。の。縁。の。ま。じ。日。觀。三。障。の。雲。乃。あ。ら。は。は。い。今。ま。
り。わ。き。ま。へ。ご。か。り。ま。い。の。ら。し。文。德。天。皇。乃。法。字。天。安。
二年。よ。も。法。の。り。わ。り。し。る。善。導。大。師。の。法。教。の。觀。
經。の。疏。乃。文。を。見。し。と。く。人。不。審。を。は。ひ。ま。し。侍。り。
天平實字七年より。天安二年より。い。ま。ま。い。九。十。

六年あり。そのとき吾朝よてなつた。是も曼陀羅の
法に及よつた。觀經乃疏の文よ。符合する。我
ん。不思議とて申傳へ侍る。よ上人とてたゞも
浄土に宗義をひきまなす。はよ重源入唐。其時の
彩像をもつまきより。我命をたつた。とて。我乃
彩像上人の位。たがう。こと。宣奇特。あつた。や
されん。道俗も。賤う。た。五祖。乃。上。彩。を。お。く。い。
くと。人の。徳。よ。御。ます。す。く。念佛。の。位。を。あ。く。

きの。當時。二尊院。の。経藏。よ。安置。する。は。の。た。重源。將
來。の。真影。あり。

